日本特殊教育学会第 61 回大会（2023 横浜大会） 病弱虚弱、行動・情緒障害 P2C-26

場面緘黙当事者・経験者と対照群における精神・行動の問題と社交不安、発話の関連および比較

田中佑里恵
（京都大学大学院人間・環境学研究科）

KEY WORDS: 場面緘黙　精神・行動の問題　パス解析

【目的】

本研究は、場面緘黙当事者、場面緘黙経験者、対照群における精神・行動の問題と社交不安、場面緘黙症状により抑制される発話の程度を比較し、精神・行動の問題と社交不安、発話、群との関連を明らかにする。

【方法】

対象者　場面緘黙当事者 5 名（男性 2 名、女性 3 名；平均 20.80 歳、*SD* = 2.95、18-25 歳）、場面緘黙経験者 21 名（男性 3 名、女性 17 名、その他 1 名；平均 21.29 歳、*SD* = 2.12、18-25 歳）、対照群（大学生）9 名（男性 3 名、女性 6 名；平均 19.44 歳、*SD* = 1.59、18-23 歳）を分析対象とした。

質問項目　ASR（ASEBA）大項目Ⅸ尺度Ⅰ-Ⅸ123 項目 3 件法（0-2；精神・行動の問題）、SFNE12 項目 5 件法（1-5；社交不安）、SMQ-R（改変）16 項目 4 件法（0-3；発話）兼 SMQ-J（改変）15 項目 4 件法（0-3；発話）を用いた。

倫理的配慮・利益相反　京都大学大学院人間・環境学研究科人間情報研究・動物実験倫理委員会の承認を得た（承認番号 30-H-6）。開示すべき利益相反関連事項はない。

【結果】

全体・群別の記述統計量と信頼性係数および場面緘黙経験者群と対照群間でのウィルコクソンの順位和検定（Table 1）　当事者群は検定に十分でない人数のため経験者群と対照群間で検定した結果、不安／抑うつは経験者群、侵入性は対照群が有意に高かった。

パス解析（Table 2, 3, 4）　群別は対照群を基準とした当事者群、経験者群のダミー変数に変換した。SMQ-R と SMQ-J は別にモデルに使用し分析した。有意なパスは、両モデルにて、SFNE から不安／抑うつ、注意の問題、攻撃的行動、規則違反的行動、侵入性、その他の問題へ正、当事者群から攻撃的行動、侵入性へ負、経験者群から侵入性へ負のパスがあった。さらに SMQ-R 使用モデルにて、当事者群から注意の問題へ負、SMQ-R 学校や職場からひきこもり、攻撃的行動へ負、SMQ-R 社会的状況から不安／抑うつへ負のパスがあった。SMQ-J 使用モデルにて、SMQ-J 学校や職場場面（教師や上司）からその他の問題へ負のパスがあった。両モデルは GFI、CFI は良いが χ^2 検定結果、AGFI、RMSEA は良くなく、適合が良いとはいえなかった。

【考察】

群によらず社交不安の高さは多くの問題に、学校や職場およびそのうち教師や上司への発話の抑制は数個の問題に影響があり、治療や支援の必要性がある。家庭での発話の抑制の影響は見られなかった。対照群は分析に共通して侵入性が経験者より高く、パス解析では加えて当事者より高く、当事者および経験者における他者に目立つ行動の少なさが示唆される。当事者の人数やパス解析の適合度が十分でない点は本研究の限界である。

【質問項目の文献】

船曳康子・村井俊哉（2015）ASEBA 行動チェックリスト（18～59 歳成人用）の標準値作成の試み．臨床精神医学, 44(8), 1135-1141.

笹川智子ら（2004）他者からの否定的評価に対する社会的不安測定尺度（FNE）短縮版作成の試み―項目反応理論による検討―．行動療法研究, 30(2), 87-98.

角田圭子ら（2022）Selective Mutism Questionnaire 日本版（SMQ-J）の信頼性と妥当性の検討．不安症研究, 14(1), 47-55.

(TANAKA Yurie)

Table 1　全体・群別の記述統計量と信頼性係数および場面緘黙経験者群と対照群間でのウィルコクソンの順位和検定結果

		全体 (*N*=35)			場面緘黙当事者群 (*n*=5)			場面緘黙経験者群 (*n*=21)			対照群 (*n*=9)			α	経験者群-対照群間	
		Mean	(*SD*)	Median	Mean	(*SD*)	Median	Mean	(*SD*)	Median	Mean	(*SD*)	Median		*W*	*r*
SFNE		47.57	(8.92)	50	47.80	(5.12)	50	50.71	(7.40)	52	40.11	(9.97)	43	.90	154.5	.51
SMQ-R	合計	23.89	(9.51)	23	16.40	(4.98)	15	25.43	(9.59)	25	24.44	(10.01)	25	.92	93.0	.01
	学校や職場	9.29	(4.04)	9	5.20	(2.59)	6	10.05	(3.99)	10	9.78	(3.73)	10	.85	96.5	.01
	家庭や家族	8.37	(3.35)	8	8.20	(3.03)	7	8.76	(3.65)	9	7.56	(2.96)	7	.82	114.5	.16
	社会的状況	6.23	(3.60)	5	3.00	(1.22)	3	6.62	(3.53)	5	7.11	(3.92)	7	.88	82.0	.10
SMQ-J	合計	22.63	(8.80)	22	16.00	(5.00)	15	24.14	(8.90)	25	22.78	(9.20)	23	.91	97.0	.02
	社会場面	4.97	(2.88)	4	2.60	(1.14)	3	5.33	(2.85)	4	5.44	(3.21)	5	.85	88.0	.05
	学校や職場場面（教師や上司）	4.46	(2.13)	4	2.60	(1.14)	3	4.90	(2.23)	5	4.44	(1.88)	4	.75	107.0	.10
	家族関連場面	8.37	(3.35)	8	8.20	(3.03)	7	8.76	(3.65)	9	7.56	(2.96)	7	.82	114.5	.16
	学校や職場場面（同級生や同僚）	4.83	(2.22)	5	2.60	(2.19)	2	5.14	(2.03)	5	5.33	(2.12)	6	.76	86.0	.07
ASR	全問題	79.83	(37.03)	78	66.00	(32.04)	51	87.43	(32.77)	82	69.78	(47.40)	59	.97	125.0	.25
	内向	33.86	(16.18)	31	31.20	(12.56)	26	38.14	(14.85)	39	25.33	(18.65)	25	.95	136.5	.35
	外向	12.89	(8.15)	13	8.20	(6.76)	8	13.05	(5.94)	13	15.11	(12.33)	12	.88	101.5	.05
	Ⅰ不安／抑うつ	18.89	(8.36)	20	17.60	(5.27)	17	21.62	(7.29)	22	13.22	(9.68)	14	.93	143.5 *	.41
	Ⅱひきこもり	8.91	(4.63)	10	7.80	(3.96)	7	10.14	(4.28)	10	6.67	(5.20)	6	.88	133.5	.32
	Ⅲ身体愁訴	6.06	(5.29)	4	5.80	(4.49)	4	6.38	(5.60)	3	5.44	(5.46)	4	.88	109.5	.12
	Ⅳ思考の問題	4.14	(3.81)	4	3.20	(3.63)	2	4.57	(4.19)	4	3.67	(3.16)	3	.81	106.5	.10
	Ⅴ注意の問題	13.00	(7.32)	12	10.20	(6.14)	11	14.38	(6.64)	14	11.33	(9.25)	6	.90	122.5	.23
	Ⅵ攻撃的行動	7.34	(4.34)	8	4.00	(3.39)	3	8.05	(3.61)	8	7.56	(5.77)	6	.81	112.0	.14
	Ⅶ規則違反的行動	3.49	(3.32)	3	2.60	(3.13)	1	3.52	(2.16)	3	3.89	(5.44)	1	.75	121.0	.22
	Ⅷ侵入性	2.06	(2.15)	1	1.60	(1.52)	1	1.48	(1.99)	1	3.67	(2.18)	4	.79	39.5 **	.48
	Ⅸその他の問題	15.94	(6.34)	15	13.20	(5.40)	13	17.29	(5.91)	16	14.33	(7.53)	13	.95	125.0	.25

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

Table 2　SMQ-R使用モデルのパス解析結果

構造方程式（因果関係）	*β*	ASR Ⅰ 不安／抑うつ	ASR Ⅱ ひきこもり	ASR Ⅲ 身体愁訴	ASR Ⅳ 思考の問題	ASR Ⅴ 注意の問題	ASR Ⅵ 攻撃的行動	ASR Ⅶ 規則違反的行動	ASR Ⅷ 侵入性	ASR Ⅸ その他の問題
SFNE		.63 ***	.16	.27	.34	.37 *	.51 **	.39 *	.48 **	.55 **
SMQ-R学校や職場		−.04	−.55 **	−.45	.12	−.36	−.39 *	−.13	−.04	−.19
SMQ-R家庭や家族		−.02	.07	.21	−.10	.20	−.06	−.28	.18	−.18
SMQ-R社会的状況		−.35 *	−.18	−.19	−.17	−.16	−.07	.07	.04	−.04
当事者		−.15	−.26	−.32	−.15	−.38 *	−.62 ***	−.25	−.46 **	−.30
経験者		.12	.27	−.09	−.07	−.03	−.20	−.21	−.76 ***	−.03
共変関係	*r*	SFNE	SMQ-R 学校や職場	SMQ-R 家庭や家族	SMQ-R 社会的状況					
SFNE		–								
SMQ-R学校や職場		−.22	–							
SMQ-R家庭や家族		.14	.57 **	–						
SMQ-R社会的状況		−.19	.66 **	.55 **	–					
当事者		.28	−.41 *	.07	−.40 *					
経験者		.54 **	.03	.18	−.07					
決定係数	R^2	ASR Ⅰ 不安／抑うつ	ASR Ⅱ ひきこもり	ASR Ⅲ 身体愁訴	ASR Ⅳ 思考の問題	ASR Ⅴ 注意の問題	ASR Ⅵ 攻撃的行動	ASR Ⅶ 規則違反的行動	ASR Ⅷ 侵入性	ASR Ⅸ その他の問題
		.66	.50	.26	.11	.28	.50	.23	.50	.38

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

Table 3　SMQ-J使用モデルのパス解析結果

構造方程式（因果関係）	*β*	ASR Ⅰ 不安／抑うつ	ASR Ⅱ ひきこもり	ASR Ⅲ 身体愁訴	ASR Ⅳ 思考の問題	ASR Ⅴ 注意の問題	ASR Ⅵ 攻撃的行動	ASR Ⅶ 規則違反的行動	ASR Ⅷ 侵入性	ASR Ⅸ その他の問題
SFNE		.64 ***	.16	.29	.36	.40 *	.52 **	.41 *	.47 **	.60 ***
SMQ-J社会場面		−.27	−.11	−.09	−.05	−.08	.00	.17	.01	.13
SMQ-J学校や職場場面（教師や上司）		−.11	−.30	−.35	−.07	−.36	−.32	−.23	.07	−.47 *
SMQ-J家族関連場面		−.05	.06	.15	−.19	.11	−.13	−.41	.22	−.41
SMQ-J学校や職場場面（同級生や同僚）		.01	−.33	−.15	.20	−.01	−.09	.15	−.13	.37
当事者		−.12	−.24	−.27	−.09	−.32	−.57 **	−.17	−.49 **	−.14
経験者		.14	.28	−.06	−.03	.01	−.17	−.17	−.78 ***	.05
共変関係	*r*	SFNE	SMQ-J 社会場面	SMQ-J 学校や職場場面（教師や上司）	SMQ-J 家族関連場面	SMQ-J 学校や職場場面（同級生や同僚）				
SFNE		–								
SMQ-J社会場面		−.11	–							
SMQ-J学校や職場場面（教師や上司）		−.13	.53 **	–						
SMQ-J家族関連場面		.14	.57 **	.47 *	–					
SMQ-J学校や職場場面（同級生や同僚）		−.27	.53 **	.72 **	.58 **	–				
当事者		.28	−.35	−.31	.07	−.43 *				
経験者		.54 **	−.02	.11	.18	−.04				
決定係数	R^2	ASR Ⅰ 不安／抑うつ	ASR Ⅱ ひきこもり	ASR Ⅲ 身体愁訴	ASR Ⅳ 思考の問題	ASR Ⅴ 注意の問題	ASR Ⅵ 攻撃的行動	ASR Ⅶ 規則違反的行動	ASR Ⅷ 侵入性	ASR Ⅸ その他の問題
		.65	.49	.25	.11	.29	.50	.25	.51	.46

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

Table 4　SMQ-R使用モデルとSMQ-J使用モデルのパス解析のモデルの適合度

	χ^2	*df*	*p* 値	GFI	AGFI	CFI	RMSEA [90% CI]
SMQ-R使用モデル	10.07	1.00	.002	.97	−2.87	.98	.51 [.26, .81]
SMQ-J使用モデル	10.07	1.00	.002	.97	−3.12	.98	.51 [.26, .81]